

福岡県で見出された緑化樹の病害 (続の3)

福岡県林業試験場 小 河 誠 司

福岡県下で見出された緑化樹の病害について報告する。病原菌の同定は小林享夫博士にお願いした。

1. ヤマハンノキモドキのすすかび病 (新称)

Cercospora sp.

病徴 ; 葉に1mm前後の暗褐色円状斑が作られる。病斑はのちに拡大し、5mm前後になる。葉縁部の病斑は葉縁に沿って拡大し、病斑の進展に伴なって葉枯状となる。病斑は拡大とともに灰色味を帯びるが健全部との境界はごく狭い帯で囲まれる。葉裏は褐色斑として現われるが、健全部との境界はさほど明瞭でない。

葉両面の病斑に暗緑褐色で毛ばりった菌体が多数形成される。

病原菌の形態 ; 分生子梗は短かく、分生子は単生、先がや、細く、3~4節、無色からや、緑味を帯びる。大きさ、35~70 μ ×2~3 μ 。

ノート ; ヤマハンノキモドキ (*Fothergilla m-anticola* Ashe.) は北米原産のマンサク科 (*Hamelidaceae*) の植物で当場見本園内に数本、苗木の状態で植えられている。1978年9月、上記の病徴を持つ斑点性病害の発生を認めた。マンサク科植物では山本・前田¹⁾によりマンサク属 (マンサク, *C. hamamelidis*)、ミズキ属 (ミズキ, *C. cornicola*) に *Cercospora* 属菌が見出されているが、*Fothergilla* 属には内外ともに *Cercospora* 属菌の記載はないようである。種の同定はあとにして、とりあえず本病の病名をすすかび病とすることを提唱する。

2. ナツツバキのすすかび病 (新称) *Cercospora* sp.

病徴 ; 葉先および葉縁部が侵されることが多い。一見すると乾燥の害のように見える。病斑は葉先および葉縁から3~5mmに若干緑味を残した黄褐色斑として現われ、次第に拡大し葉を巻き枯らし状にし、しばしば激しい早期落葉をおこす。葉裏の病斑は最初黄緑褐色でやがて黄褐色から褐色に変化する。健全部との境界は、はっきりしないものが多い。葉の表裏両面の病斑上には暗緑色すすかび状物が形成される。

病原菌の形態 ; 分生子は先端部がや、細く、ほとんど湾曲せず、無色で5~6節、大きさ、25~57.5 μ ×2.2~2.8 μ 。

ノート ; 本病は当場見本園植栽のナツツバキ (*Stewartia pseudocamellia* Maxim.) に1978年10月に見出したものである。ナツツバキはツバキ科 (*Ternstroemiaceae*) の *Stewartia* 属の落葉高木で *Stewartia* 属にはナツツバキの他、ヒメシャラ (*S. monadelphica*) 等があるが今のところ *Stewartia* 属植物上に *Cercospora* 属菌の記録はない。種名については目下検討中であるが、ここでは *Stewartia* 属植物上に *Cercospora* 属菌が見出されたことと、病名としてすすかび病をあてることを提案する。

表-1 福岡県下で新たに見出された緑化樹の病害

	寄主名	病名 (病原菌名)
常 緑 広 葉 樹	アセビ	<i>Cercospora</i> ^{a)} 褐斑病
	カザンデマリ	<i>Haplosporella</i> ^{a)}
	クちなし	<i>Guignardia</i> ^{a)}
	クロキ	<i>Macrophoma</i> , <i>Phyllosticta</i> ^{a)}
	シャリンバイ	<i>Pestalotia</i> ^{a)}
	テンダイウヤク ユズリハ	褐斑病
落 葉 広 葉 樹	オオシマザクラ	穿孔褐斑病
	コブシ	<i>Valsa kitagimana</i> ^{a)}
	ケムリノキ	うどんこ病
	シダレモモ	炭疽病, 穿孔細菌病
	シロフヨウ	<i>Phyllosticta</i> ^{a)}
	トサミズキ	<i>Macrophoma</i> ^{a)}
	ハナズオウ	<i>Pestalotia</i> ^{a)}
	ビョウヤナギ	<i>Discosia</i> ^{a)}
	フジザクラ	斑点病
	ユキヤナギ	褐斑病
ユスラウメ	<i>Phyllosticta</i> ^{a)}	

注 : a) 病名のないもの

3. ハクウンボクの褐斑病 (新称) *Cercospora* sp.

病徴 ; 最初葉に暗紫褐色から褐色の1mm前後の葉脈で区切られた不整角状斑が作られる。やがて、病

斑は拡大し3mm位になると互いにゆかし7~10mm前後となる。健全部との境界は非常に明瞭で暗紫褐色である。葉裏の病斑は黄褐色で健全部との境界は明瞭でないが、葉脈で区切られている様子が良く判る。葉の表裏両面の病斑上には暗緑褐色で毛ば立った子実体が作られるが、主に葉裏の病斑上に多い。

病原菌の形態； 分生胞子は半透明で先端が細く基部に僅かに分生子梗との接続跡を残す。隔膜は4~5個が多く、や、彎曲する。大きき22.5~40 μ ×2.5 μ ノート； 本病は當場見本園に植栽されているハクウンボク (*Styrax Obassia*) に1978年10月に見出したものである。ハクウンボクはエゴノキ科 (*Styracaceae*) のエゴノキ属 (*Styrax*) に属する落葉高木で、*Styrax* 属には、エゴノキ (*S. japonicum*) に *Cercospora fukuokaensis* CHpp による褐斑病が記録され (香月・1965⁹⁾、小林・1976¹¹⁾、富樫・香月・1952¹⁰⁾、山本・前田・1960¹¹⁾、福岡県での分布も知られている。⁶⁾

本病原菌が *C. fukuokaensis* に当るかどうかは後程検討するとして、同属のエゴノキの褐斑病に準じてハクウンボクの *Cercospora* 属菌による病気も、褐斑病とすることを提案する。

4. ミズメの葉枯病 (新称) *Cercospora* sp.

病徴； 最初葉に3mm前後のこげ茶色 (暗褐色) のや、角ばった斑点が作られる。のち病斑は拡大し、葉脈で区切られてや、長方形がかった褐色病斑となり、葉縁部に作られる病斑はのち主脈に向かって拡大し扇状病斑となるものが多く、十数mmに達するものもある。

健全部との境界は狭い黒紫褐色帯で囲まれる。葉裏面の病斑は緑味を僅かに残した黄褐色で病斑拡大後も変化がない。葉表裏両面の病斑上には黒色小粒点作られるが、葉表面病斑上に多く、やがて小粒点は暗緑色すすかび状物で覆われる。

病原菌の形態； 分生子柄は子座表面に作られ、短い。分生胞子は細長く、先端細まり糸状、数細胞、一方に彎曲するものが多いが中にはS字状に彎曲するものもある。

ノート； ミズメ (*Betula grossa*) はカバノキ科 (*Betulaceae*) のシラカンバ属 (*Betula*) に属する落葉高木で樹皮は暗褐色平滑でサクラの樹皮に以ている。カバノキ科植物上にはハシバミ属 (*Corylus*) のツノハシバミ (*C. Sieboldina*) に *Cercospora* 属菌による葉枯病が知られるが (小河¹²⁾)、*Betula* 属には *Cercopora* 属菌の記載はない。1978年島根県でシラ

カンバ (*B. platyphylla*) に *Cercospora* 属菌による病気が発生したという情報があるが公表されておらず詳細は不明である。本病気は當場見本園のミズメ上に1978年9月に見出したもので、*Betula* 属に *Cercospora* 属菌の記載がないので、種についての検討はまだであるが、とりあえず病名を葉枯病としておきたい。

5. ユズリハの褐斑病 *Cercospora* sp.

病徴； 葉に6~7mmの暗褐色でや、角ばった斑点が作られる。葉縁および葉先は半円状斑または葉枯れ症状となる。葉裏はや、淡褐色斑となり健全部との境界はぼけるものもでてくる。病斑表裏両面に暗緑色で密な毛ば立った子実体が多数作られる。

病原菌の形態； 分生子梗は単細胞、無色で約15 μ ×2.5 μ 。分生胞子は4~5細胞でや、彎曲し、先端部につれて細くなる。大きき、52.5 μ ~82.5 μ ×2.5 μ ノート； 本病は當場見本園植栽のユズリハ (*Daphniphyllum macropodum* Mig.) に1979年8月に見出したものである。ユズリハはユズリハ科 (*Daphniphyllaceae*) のユズリハ属 (*Daphniphyllum*) に属する常緑高木である。*Daphniphyllum* 属植物上には堀江ら (1975¹³⁾) により *Cercospora* 属菌の一種による褐斑病が記録されている。病徴等から考え同じ病気と考えられ、本病が東京の他に福岡にも分布することを記録にとどめておく。

おわりに

表-1に記載されている病害はほとんど病名がないので、病状に特色のあるもの、病状の激しいものについては、今後さらに検討し、病徴・病原菌の形態等について記録してゆくつもりである。最後に病原菌の同定およびとりまとめに種々助言をいただいた小林享夫博士に心から感謝致します。

引用文献

- (1) 山本和太郎・前田己之助；兵庫農大研報，農生編4 (2)，41~91，1960
- (2) 香月繁孝；日菌報特別号1，63，1965
- (3) ———・富樫浩吾；横浜園大科研報II，1，1~7，1952
- (4) 小林享夫；森林防疫 286，3~4，1976
- (5) 堀江博道・小林享夫・菅田重雄・阿部善三郎；森林防疫 277，74~75，1975
- (6) 小河誠司；日林九支研論 31，219~220，1978
- (7) ———；——— 29，252，1976